



本年 11 月 15 日、まるで何事もなかったかのように、昨年と同じ風景が再現しました。私の頼もしい助っ人が、昨年より 8 日遅れで、再びやってきたのです。三千匹のミツバチたちの事です。今年のミツバチたちは順応がすごく早かったですね。ハウスに入って 2 日目には、もう白い花の間を飛び回って、受粉作業に精出していましたよ。時には一つの花に 3 匹が群がって、争っているような「平和な風景」も見られましたね。

本年上半期、1 月から 6 月頃までの出荷という面では、非常に順調と言っていいでしょう。昨年の 5 月、出荷終了ごろから付き合いは始まったのですが、広島市内の洋菓子店「P」との取引が出来たことが大きかったですね。きっかけを作ったのは、私ではなく妻でした。それも「積極的な営業」というより、彼女がいつもやる「クダラナイお喋り」が、「瓢箪から駒」の結果を生みました。

行きつけの洋菓子店で、妻が何気なく、私がイチゴ栽培をしていること、そして作っているのが廿日市市の平良（へら）であることを話したらしいのです。帰宅した妻が言うには、経営者の奥さんの方が、「平良のイチゴ」に非常に興味を示している、というのです。それから私はきわめて迅速な対応をしました。翌日にすぐに電話し、見本のイチゴを数パック持って店に持参し、経営者の方と会って、価格や出荷方法、規格等についての、相談と取り決めをしました。それからお付き合いが始まったわけです。昨年は、出荷が終わる頃で少量しか出せなかったのですが、今年は 6 月までに、出荷量の 9 割を店に直売することができました。4 月初めには、「イチゴフェア」と銘打って、私のイチゴのパック売りも 1 週間ほどしていただきましたね。



生産規模が小さいですから、店の必要量の一部を賄ってもらうという形しかできませんが、「朝取り」したばかりの自分のイチゴが素材となって、おいしいケーキになってくれるというのは、実にうれしいことです。さらに自分が作っているイチゴを、待っていてくれる顧客がいると聞くと、やりがいも感じますね。私のつくったイチゴを使用したケーキ、というのも何度かいただきましたが、甘党ではなく、明らかな「辛党」の私も、格別においしくいただきました。私のイチゴの酸味と硬さが、生クリームの甘さと良く合って、絶品(!)なのですよ。

、「どうしてイチゴをやることにしたんですか？」と聞かれることが時々あります。私は定年後の農業を考えた時に、出来れば「花以外のものに挑戦したい」という思いがあったのです。父が洋ランをつくり、自分が花市場に長年勤務した、という事情も左右しました。33 年も業界にいたことで、「花を小規模に作っても儲からん」「油を使わんと出来んようなものは採算が合わん」、というような偏見(?)を持ってしまったのです。その時に思い浮かんだのが、すでに過去のものになっている「平良イチゴ」(へらいちご)というブランド(?)でした。30 年前には近所で沢山作っており、母

もやっていたという記憶がよみがえりました。そこで、近所のイチゴ農家の「Fさん」を訪ね、JA イチゴ部会に入れてもらい、私のイチゴ栽培がスタートしたというわけです。

ここでついでながら、「平良イチゴ」(へらいちご)についての説明が必要に思います。私の住んでいる廿日市市は、広島市の隣に位置しますが、その中の「平良地区」では、かつてイチゴ栽培が非常に盛んな所だったのです。戦後まもなく栽培が始まり、昭和 40 年代には 100 件近くあって、温暖で日照がいいという好条件もあって、質量ともに県内のイチゴ生産地のブランドとなった時期があったのです。しかし、その後は生産者の高齢化等の事情により衰退し、現在の JA 佐伯中央苺部会の会員はわずか 9 名。毎月の勉強会には夫婦で来られる人が多いですから、13 名程度の出席という寂しい状態です。ちなみに、現在は平良地区の生産者だけではありませんから、部会では、「はつかいちご」という新しいブランド名で売り出しています。

今年のイチゴ栽培は、6 月の出荷終了までは順調でしたが、その後については、困難の連続でしたね。まずは自家製の育苗の失敗があります。昨年 12 月に購入した 14 個の親株をプランターに植えて、春に出てくるランナー苗を、6 月頃にビニールポットに植えて育ててゆくのです。専用ハウスを持っていないので、雨除けビニールを作ったり、寒冷紗を張り替えたり、と大変でした。消毒も毎週のように薬品を変えてやっていましたね。



しかし、今年の夏の天候は異常でしたよ。台風に豪雨、そして長雨と日照不足です。農業をやっている、影響を受けない者はいなかったのではないですか。7 月末の時点では、500 ポット位は今年も確保できるかと思っていたのです。しかし、それから毎日のように、苗がポロリポロリと萎れていったのです。雨模様が 1 週間も続いたり、日照もほとんどなかったですからね。8 月の末には明らかに病害にやられていると思われる苗を処分したので、半分くらいしか残っていませんでした。

9 月初めの勉強会において「病害らしき苗」を持参し、先生に見てもらったところ、「こりゃあ、たんそ病にやられとるね」と言われ、ガックリ。灌水時の水で感染してゆくので、ほとんどダメになる可能性が大でした。最終的には 100 ポット程度は残っていましたが、「たんそ病」のウイルスを持っている可能性があるのでは、使用する気にはなませんでしたね。結局のところ、今年の自家苗は全滅、すべてを廃棄処分しました。情けなかったですね。

、この危機は、苗の生産者に頼んでいた注文数量以外に、不足分の追加に応じてもらったことで、何とか切り抜けました。予算は大きくオーバーですが、この際「背に腹は代えられない」というわけです。9 月には、体調不良による労力的な問題も浮上しましたが、これについては「コラム 35: 老い」において詳述しましたので、ここでは割愛させていただきます。

いろんな困難がありましたが、今までの所、自分でも信じられないほど良好な出来になっています。JA 佐伯中央苺部会では毎月 1 回、会員の農場を持ち回りで使用して勉強会をやっています。11 月初めに私のハウスで催した時に、講師の F 先生に「だいぶ腕をあげたね」と言われ、少し得意になりましたが、あまり喜んでおられないのです。自家製の苗ではないのですからね。これから



どのようになるかは未知数ですが、現在まで(12/26)のところは、きわめて順調な出来になりました。



4年目にしてやっと、イチゴ栽培農家と言えるだけの出来になりましたが、ここまでに来るのには、いろいろな人に教えてもらい、ずいぶんと助けてもらいましたね。まずはJAイチゴ部会の人、特に近所で長くイチゴ栽培をやっている「Fさん」には、ずいぶんと物心両面で助けてもらっています。そして、所属しているJA 苺部会では、肥料や資材の調達をしてもらっています。しかし、何といっても月1回の勉強会の講師「F先生」の存在は大きいですね。元は宇部の大手

肥料会社の方で、現在は定年退職されていますが、「イチゴ博士」と呼んでいいほどの、知識と技術をもっておられますね。困った時、わからないことがあった時に、質問すると必ず答えがもらえる、というのは実に心強いことです、恵まれていると思いますね。

他にも多くの人の世話になっています。資材調達やハウス補修などの相談をしている親戚のバラ農家の「T園芸さん」、そしてハウス内作業の手伝いを時々お願いしている「Yさん」。この人は80歳近い高齢の方ですが、技術面でいろいろと教わり、ずいぶん助けてもらいました。3年前に、父の鉄骨ハウスの解体でお世話になった「Tさん」には、今でもトラブルの折には相談しています。

ここまで書くと「誰か忘れちゃいませんか」という声が聞こえます。言うまでもなく、私の妻、ウチのカミサンですよ。彼女は一応「営業担当」ですが、ハウスの仕事も手伝ってもらいます。意見の食い違いが必ず起こって、「もめ事」は絶えませんが、かなり役には立っていますね。高齢の私の母も、現在は「摘花」と「ランナー除去」の仕事を担当して、がんばってくれています。

ずいぶんと多くの人に助けられ、支えられてここまで来たのですが、私が一番感謝しなくてはならないのは、3年前に亡くなった父かもしれません。土地を残してくれたからこそその農業であり、いろんな温室資材や大工道具のほとんどが、今の温室管理に役立っているのですからね。そんな道具を全部買っていたら大変だったでしょう。ハウス用のパイプや、寒冷紗やビニール、さらに草刈り機や作業台まで、今でも使用しています。今さらながら、父に感謝です。

私が会社を去って、早いもので5年という月日が流れました。私は退職時の挨拶でこんなことを言ったことを覚えています。「会社をやめるということは、大船から小舟に移るようなもの。会社では沢山の人で助け合いができるが、これからは一人で頑張らないと船が沈んでしまう」という内容だったと思います。当時の私は、入院している父のことや、ハウスの解体、農業の開始など、これからの人生に大きな不安がありました。それゆえ退職時の挨拶で、こんなことを言ったのでしょう。しかし、それからの5年間を振り返ってみると、自分が言ったことを訂正しなくてはいけないと思っています。確かにそれからの人生で、いろいろな困難に遭遇しました。しかし、そこで上記のように、沢山の人に出会い、いろいろと助けてもらったのです。「大きな船」から下りたら、そこに沢山の「小舟」に乗っている人たちがおり、助け合っていたのですよ。



「イチゴが、ちいとエエガに出来たいうて、エエ気になっちゃあいいんよう。ワシだけの力じゃあ、とてもここまでやれんかったんじゃけえのう」

